



JTUC-TOKUSHIMA 連 合 徳 島

発行: 日本労働組合総連合会徳島県連合会

編集責任者 齋藤英司

vol. 237

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35の1
徳島県労働福祉会館内

tel. 088 (655) 4105

fax. 088 (655) 4113

E-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp

http://tokushima.jtuc-rengo.jp/

当面の日程

- ◎ 8月22日(水) 第23期部落解放・人権講座(労働福祉会館)
- ◎ 8月23日(木) 連合徳島組織拡大アクション委員会(連合徳島) 第9回連合徳島五役会議・第7回連合徳島執行委員会(労働福祉会館)
- ◎ 8月25日(土) 連合徳島ボランティア・サポートチーム養成講座(労働福祉会館)
- ◎ 9月1日(土) 連合徳島ボランティア・サポートチーム養成講座(美波町由岐)



各構成組織、家族ら33人(うち子ども10人)が行動参加

平和行動 in長崎

永遠の世界平和願い 連合徳島 代表団折り鶴を献納

連合は平和運動として、核兵器廃絶による世界の恒久平和実現、被爆者支援の強化、在日米軍基地の整理・縮小、北方領土の早期返還など、6月～9月を平和行動月間と位置づけ、①6月沖繩、②8月広島・長崎、③9月根室での平和行動を基本に、取り組みを進めている。

連合徳島は隔年で広島と長崎を訪問。本年度は8月7日～10日、代表団33人

(内子ども10人)が長崎平和行動に参加した。

代表団は、8月8日に長崎市平和公園での「ピースウォーク」に参加。ピースウォークは連合長崎の青年・女性委員会のメンバーがピースガイドとして被爆者からの聞き取りや現地調査など事前研修を積み重ねて実施したもので、参加者は原爆落下中心碑や浦上天主堂遺壁、被爆当時の地層、平和の泉、長崎の鐘、平和祈念像などをめぐり、詳しく説明を受けた。

続いて、長崎原爆資料館を見学。67年前の原爆によって一瞬にして7万4千人の尊い命が奪い去られた当時の写真や映像、炭化した衣類や遺品等を見て、改めて核兵器廃絶と世界の恒久平和への思いを強くした。

その後、原爆資料館大ホールで開催された「平和シンポジウムin長崎」に参加。2012年NPT再検討会議の検証および核兵器廃絶へ向けた更なる取り組みについて、外務省、大学教授、核禁会議などから問題提起と取り組み、訴えが行われた。

「長崎原爆の日」の8月9日は、各構成組織から集



各構成組織青年委・女性委など22人が参加

青年委・女性委 合同研修会

教宣活動テーマに

機関紙作成の技術学ぶ

連合徳島青年委員会・女性委員会は、7月14日、県労働福祉会館で合同研修交流会を開き、各構成組織の

青年委員会・女性委員会組合員や広報(教宣)担当者ら23人が参加した。なお、合同で研修会を開くのは初めての試み。

今回の合同研修交流会のテーマは教育宣伝活動。講師に機関紙広報研究センター・河野文雄代表を招き「編集スキル基礎講座」として、機関紙(新聞)づくりのノウハウを学習した。

冒頭、主催者を代表し小畑青年委員会委員長が「昨今、情報の速度は速く、正しい情報をわかりやすく発信する技術が必要であるこ

とを痛感している。本講座で機関紙作成の技術を学んで、各構成組織で活用し作成して欲しい」とあいさつ。

講座では、機関紙作成の企画段階の心構えや新聞作成のルールなどの説明を受けるとともに、とりわけ見出しを効果的に活用することや、通常の見出しは1～2段で作成するが、注目記事は3段以上のサイズで作成すること。そのことで紙面にメリハリが付き注目記事を目立たせることができるとテクニックについても説明を受けた。

機関紙を作成したことがある参加者からは、「これまで漠然と組合ニュースを編集していた。紙面上の禁じ手やルールがあることを知り、参考になった。これからの活動に活かしていきたい」との声も出された。

約した折り鶴(8万2千羽)に参加者それぞれのメッセージを書き込み、原爆落下中心碑に折り鶴を献納した後、長崎市平和祈念公園での「原爆犠牲者慰霊式典」に参加した。原爆が投下された11時2分には、亡くなった人への冥福を祈

り、永遠の世界平和と二度と戦争の悲劇を繰り返さないことを決意して参加者全員で黙祷した。また、長崎市長は平和宣言で、核拡散防止条約を超える新たな仕組みとして「核兵器禁止条約」を挙げ、「国際社会は締結に向け具体的な一歩を踏み出すべき」と訴えた。

最終日は、朝から「下関唐戸市場」を見学し、一路徳島まで。「戦争の悲惨さや平和の大切さを改めて認識し、それぞれの職場や地域で平和運動を一層強化していく」ことを参加者全員で確認し、長崎平和行動を終了した。



過去最高の82,000羽を集約した平和の折り鶴

人権侵害 救済機関 設置求め抗議行動



鳴門市議会議員・副議長抗議行動(4/5)

現在、国会において進められている「人権侵害救済法」の「人権救済機関」設置は、日本が、今後国際的に信頼を得るためにも必要不可欠な法律と機関である。女性、子どもへの暴力や虐待をはじめ部落差別に関する差別落書き、インターネット上での人権侵害など、年間2万件余にも及ぶ人権侵害事件が発生し、その発生件数は氷山の一角ともい

われている。その殆どが現行制度のもとで救済されていない。また、アジア諸国でも人権侵害救済のための人権委員会などの設置が進んでいないのは日本と中国ぐらいである。

このような情勢の中、県内5自治体議会において、「人権救済機関」設置に反対する意見書が提出され、何の議論もされないまま採択された。以上の経過を踏

- 徳島市議会 (3月19日)
- 徳島県議会 (4月2日)
- 鳴門市議会 (4月5日)
- 松茂町議会 (5月15日)
- 藍住町議会 (7月9日)

ま、連合徳島、部落解放徳島地方共闘会議等、6団体で、21世紀は人権の世紀といわれることに、大きく逆行する動きに抗議するため、議会議員・副議長に抗議行動を実施した。

抗議行動では、抗議文を議長に提出するとともに、早急な人権侵害救済が必要な時代に来ていることを認識するよう強く要請した。

なお、各議会抗議行動日は次のとおり。



連合徳島から河村会長はじめ8人が参加

会議では、徳島労働局から、若年雇用戦略、障害者法定雇用、求職者支援制度、安全衛生などを説明。連合徳島からは、経済・産業政策と雇用政策の一体的推進、ディーセントワークの実現など連合の重点政策について報告を行った。

意見交換では、連合徳島から徳島労働局に対し、労働相談の取り組み姿勢、最低賃金、労働安全衛生、育児休業等に関わる女性労働者の職場復帰、外国人労働者の相談、求職者支援についての対応や取り組みについて質問を行うとともに、今後も連合徳島と連携強化していくことを確認した。

50本の苗木を植林

—連合の森 親子サマーキャンプ—



連合徳島組合員とその家族ら83人が参加

遊歩道ウォーキング
森林・木工教室

で自然を満喫

地球にやさしいエコ・ユニオンをめざす連合徳島は、7月28日、29日の2日間、美馬市木屋平の中尾山・平成荘で、「連合の森・親子サマーキャンプ」を開き、連合徳島組合員とその家族ら83人(大人55人・子ども28人)が参加した。

親子サマーキャンプは初日に「木工教室」「遊歩道ウォーキング」、2日目に「連合の森への植樹」を行った。「木工教室」では、子どもを中心に参加し、徳島森林管理署の職員から森林についてプロジェクトを使って説明を受けた後、杉の間伐材にどんぐりや木の枝、石などをボンンドで付けたり

自分の名前や絵を描いたり親子で熱中し、それぞれオリジナルの宝石箱を完成させた。

「遊歩道ウォーキング」ではアップダウンの激しい山道に悪戦苦闘しながらも、3時間掛けて丸笹山までウォーキングを行い、自然を



木工教室で宝石箱を作成



コナラの苗木を植林

満喫した。また、鹿から樹木を守るため防護ネットを装着する作業も参加者全員で行った。

2日目は2006年に美馬市の協力のもとでできた「連合の森」へ車で移動。植林についてレクチャーを受けた後、これまで植林してきた木の成長を確認。防護ネットの修繕や徳島森林管理署、県林務職員の指導のもと、家族・グループ毎に50本の苗木(コナラ)を

植林するとともに、鹿対策の防護ネットも取り付け、

大きく成長することを願って名札を埋め込んだ。

労働問題 連絡協議会

労働条件向上めざし 連携強化を確認

連合徳島は7月19日、徳島労働局会議室で、第1回労働問題連絡協議会を開

き、連合徳島から河村会長をはじめ、専従役員、官公労・民間大手・民間中小代表者ら8人、徳島労働局からは西井局長ら10人が参加

した。労働問題連絡協議会とは、年1回、連合徳島と徳島労働局で両団体の取り組み内容の確認や労働関係主要施

策のすり合わせ等を行い、意見交換を行うもの。冒頭、河村会長は「労働環境をめぐる情勢は厳しい。連合徳島、徳島労働局、お互い立場は違うが、知恵を出し合い、連携し労働者が安心して働き続けられる状況を作っていく」とあいさつ。

会議では、徳島労働局から、若年雇用戦略、障害者法定雇用、求職者支援制度、安全衛生などを説明。連合徳島からは、経済・産業政策と雇用政策の一体的推進、ディーセントワークの実現など連合の重点政策について報告を行った。